

Cambridge International College での 35 週間

Sachiko Okuaki

私がオーストラリア メルボルンでの語学留学を決めたのは 2008 年の 11 月でした。看護師として働いていた職場で外国人の患者さんに対応する時に英語が必要であったということがきっかけでしたが、何よりも今まで経験したことのないことをやってみたいと思ったのが一番にありました。日本で働きながら、マンツーマンの英会話スクールに 1 年間通った経験もありましたが、思うように自分の英語力は伸びず、その割にコストがかかったので、英語環境に身をおいて真剣に英語を勉強してみたいと思ったのです。

語学学校を選ぶ時に私には 3 つの選択肢が与えられました、郊外の大学付属の語学学校か市内にある 2 校です。そのうちの 1 校がケンブリッジでした。当時、何の知識もなかった私は、アクティビティーが充実しているという点と、日本人カウンセラーさんがいるというメリットにひかれケンブリッジを選びました。留学の経験はありましたが、自分ひとりで異国の地に飛び立つのは不安が付きまといます。エージェントのサポートサービスもありましたが、やはり母国語の通じるカウンセラーさんがいるということは、安心材料の一つでした。

そして、日本を離れてメルボルンに着いたのは 2009 年 8 月。メルボルンに降り立った時のワクワクした気持ちと不安な気持ちは今でもよく覚えています。到着翌日から学校がスタートしました。入学手続きの後、スピーキング、ライティングテストの結果 私は **intermediate class** からスタートすることになりました。テストの後は、学校周辺のオリエンテーションツアーがあり、メルボルン市内を簡単に案内してもらうこともできました。これから生活する街の雰囲気と、勉強に活用できる図書館や学校のヘッドオフィスの場所を案内してもらうことができました。



General English -Intermediate

最初の 5 週間は、ただただ必死に過去の知識をおさらいして、忘れかけていた **Grammar**、単語を思い出す時間でした。英語で授業を聞くということ、1 日 4 時間の授業の他に 1 時間の **extra class** に参加して、英語に慣れて行きました。クラスは 15 人中 3 人の日本人でしたが、他がベトナム、トルコ、韓国、ブラジルと国籍、年齢も様々だったので自然に英語で話すことが多くなっていったように思います。この 5 週間では、英語で **Resume**、**Cover letter** (履歴書) を書きあげ、さらに簡単なプレゼンテーションを行いました。スタート当初は、自分に出来るのか不安でいっぱいでしたが、わからない点や不明確な点があれば、先生に相談すれば丁寧に教えてもらえ、なんとかその助けを得て両方ともに完成させることが出来ました。タームの最後は、

Grammar, Reading, Writing, Listening, Speaking の 5 部門のテストを行ない、その結果をもとに先生が個人毎に課題を明確化し、次の学習プランのアドバイスももらいます。スタート当初は、授業の内容を聴き取るのに精いっぱいだったのが、5 週目を迎え簡単な意思を表示することが出来るようになっていました。文法上では間違っても丁寧に直してもらえるので、自分の弱点にも気付くことが出来ました。



General English - Upper Intermediate

Upper Intermediate にクラスが上がって、まず感じたのはボキャブラリーの数の多さとリーディングの文章が長くなったことでした。先生からは、英和辞書でなく英英辞書を使うことを勧められたものの、1つの単語を調べて内容を理解するためにさらに多くの単語を調べないと辞書に書いてある文章が理解できず、休日は図書館に行って一日中ボキャブラリーの勉強をしていました。クラスメイトにも恵まれて学校で過ごす時間は、楽しかったです。

Upper intermediate では Note taking の方法を学び、授業の内容や相手の話しているトピックの中の重要項目をピックアップしてまとめることが出来るようになりました。

なにより、このクラスでの一番の思い出は5週目の excursion で International Food Day をやったことでしょうか。毎タームに1回ある excursion でしたが、クラスメイトで話し合ってプランを立てていつもの授業とは違う楽しみがあります。各国の料理を作ってきてみんなで映画を見ながら食べようというのが、その時のプランで、チリ、タイ、ベトナム、韓国、日本、先生が作ってきてくれたアメリカの料理がずらっと並んで、みんなで楽しい時間を過ごすことが出来ました。



General English – Advanced

Advanced に上がると、より多国籍になってぐっと英語のレベルが上がりました。テキストブックの内容もさらに難しいトピックが多く、クラスメイトとディスカッションをする時間も長くなり、とにかくみんなよくしゃべるため、ふと気を抜くと、意見を聞いているだけになっているときがありました。意識して自分の意見を発言するように心がけていました。国籍や文化の違うクラスメイトとディスカッションすると、多種多様な意見が出てきて考え方の違いを実感しました。また、この時のクラスの特徴は、平均年齢が高かった（他のクラスに比べると）ために、それぞれが社会人経験を積んでいたため、経験談を聞くだけでも楽しかったです。

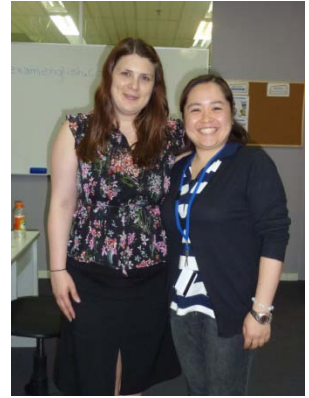
Advanced での課題は、800words のエッセイを書くことでした。

それまで、250words 程度のエッセイしか書いたことのない私にとって、800words とは、膨大な量に思えたのですが、トピックに関して時間をかけてリサーチをして、エッセイをプランニングして、まとめて行くと形になり、途中で先生にチェックを入れてもらうことで、なんとか完成させることができました。



IELTS

メルボルンで英語の勉強を始めて3ヶ月目、Upper Intermediate を修了した時に、次のコース選択をするにあたって先生から、Advanced か Academic English か Business、IELTS から次のコースを選択できるとのアドバイスをもらい、選んだのが IELTS のコースでした。将来的に受験してみようと考えていたので、選んだのですが、試験対策コースは今までの General English のクラスとは雰囲気異なり、テストの各セクションにフォーカスをあてた実践的な授業内容でした。Speaking test 対策に、模擬試験を録音して、先生やクラスメイトからフィードバックをもらったり、Writing test 対策に毎週レポートや、エッセイが宿題になって、自分の意見を盛り込んで制限時間内に形にしたり、毎日毎日模擬試験の連続。特に苦手だった Reading Test に関しては、最後の最後まで模擬テストのスコアが伸びずに悩みましたが、この時にたくさんの課題をこなしたことで、自信がついたことがわかったのは数週間先のことでした。



Cambridge FCE

General English の Advanced Class にいる時に、残りの20週間をどのコースで勉強しようか、漠然と考えていました。ちょうどそれと同時期にカウンセラーさんから、総合的に英語のレベルを伸ばすことが出来る FCE 試験対策コースを受けてみてはどうかとのアドバイスをいただいたので、試しにコース入学のためのテストを受けてみることにしました。運良くコース入学をすることが出来たものの、10週間という限られた時間の中で、試験対策をすること、自分たちの前のタームの学生達はみんな英語がペラペラな人があるクラスという印象があったので、コーススタートするまで期待と不安が入り混じった気持ちでした。



そして、コース開始してからは、それまでも増して英語漬けの日々でした。FCE のテストは英語を日常で使用する人向けの試験英語力証明資格となり、「話す」「書く」「聞く」「読む」の4分野にわたって実践的な英語力を査定します。今まで General English で勉強した知識の総括、さらに新しい vocabulary も加わり、辞書を片手にテキストブックと練習問題の繰り返し。実践的な英語能力とあるように Writing では E-mail や Formal letter、Article を書く練習を、Listening Lecture や Radio の一コマを聞き取る練習を、Reading では Skimming & Scanning という基本的なスキルに加え、Summarize する能力を、Speaking では状況を描写するスキルを身につけて行きました。IELTS のクラスの時とは違い試験日程が決まっており、クラスメイトと同じ目標に向かって勉強する、その良い意味でのプレッシャーもあり、より集中して英語に向き合うことができました。そのため、試験が終わった後の達成感は格別でした。



Business

ケンブリッジ FCE 試験対策コースの後、4 週間だけ Business English のコースに入りました。自分の専門分野とは大きく異なるため、当初は選択肢の中に入っていなかったのですが、ビジネスに関するスキルも含まれているからとアドバイスを受け挑戦してみることに、ビジネスに関するイメージがわかかなかったのですがクラスメイトに助けられてなんとか、着いていくことが出来ました。このクラスでは、プレゼンテーションがタスクの中に含まれていて、パワーポイントを使って、自分のホームタウンにおけるビジネスチャンスについてリサーチを基にしたプレゼンテーションを行いました。リサーチしたことをまとめて発表すること、しかも用意した原稿を丸読みするプレゼンテーションではなく、自分の言葉で相手に伝えるように先生から言われて、計 5 分間の短い時間が長く感じました。また、様々なグループワークの中で Team building, Leadership 等のディスカッションが出来たことで、様々な意見を聞いて、今後の自分のキャリアの中に活かしてみたくくなりました。



ホームステイ



メルボルンに着いてから、最初の 3 か月間をホームステイで過ごしました。周りはみな 1 か月でシェアハウスに移って行く人が多いのですが、オーストラリアの文化を体感するため、また英語環境の中で過ごす時間を少しでも多く持ちたくて 3 か月にしました。ホストファミリーには家族の一員のように迎えられて、シェアハウスに移った後も交流が続いています。

アクティビティー



語学学校のアクティビティーは、いろいろなクラスの生徒さんとの交流の機会になると同時に、自分一人では出かけられないところに連れて行ってもらったり、普段出来ないことを体験できるいい機会でした。メルボルンカップもその一つ、みんなでおしゃれをして、シャンパンを片手に Horse Race を楽しみました。



RMIT 日本語クラスの学生さんとの交流会も、日本とオーストラリアの文化を理解しあうのに良い機会でした。なかなかネイティブの同年代の友達を作るのが難しいので、交流会をとおして友達になることが出来て良かったです。彼らには、クラブやバー、カフェに連れて行ってもらって、私達は英語を、彼らは日本語のスピーキングの練習をしていました。また、一緒にパーティーをして、日本食を作って一緒に食べたりしました。

総括

日本を離れて海外で英語を勉強することは、たくさんの出会いがあり、周りの人に支えて助けてもらって、とても充実した楽しい時間でした。オーストラリアはもちろんのこと、色々な国籍の人と出会い、それぞれの国の文化、習慣、物事に対する考え方を知ること、日本ではなかなか経験できないこと。他の国の事を知ること、日本のことも違った角度から考えることが出来るようになりました。また、海外で生活することで、短期間の旅行では垣間見えないオーストラリアの文化を身をもって感じる事が出来ました。メルボルンに着いた時に感じた不安も、課題を前にした時の不安も、今となっては良い思い出です。「出来ないって思っても出来るようになる。」という自信に変わりました。35週間のケンブリッジでの充実した時間は、あっという間に過ぎて行ってしまいました。この充実した時間を一緒に過ごした友達、クラスメイト、先生、ホストファミリー、カウンセラーさんをはじめとする学校のスタッフの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

